

ダイバーシティ事業 人事交流プログラム（派遣）  
研究交流報告書

報告日：2019年3月12日

|   |        |
|---|--------|
| 派遣者所属名  | 保健学研究科 |
| 派遣者氏名   | 種村留美   |
| <p>Grasgow大学：</p> <p>2月3日：Evans教授のゼミで研究されている、脳損傷者のための記憶補助のアプリケーションApple treeの開発について聴取した。</p> <p>2月4日：Evans教授より脳損傷のためのPositive Psychologyについてのレクチャーを受け、日本での脳損傷グループでPositive Psychologyの導入について検討した。</p> <p>2月5日：Evans教授の院生のゼミ、脳外傷センターでのゼミに参加した。</p> <p>Oliver Zangwill Center</p> <p>2月6日：Dr. Andrew Batemanに、脳損傷者のリハビリテーションシステムについての講義を受ける</p> <p>2月7日：アディングブルグ病院にて、脳損傷研究会に参加した。</p> <p>2月8日：Dr. Andrew Batemanに、脳損傷者のリハビリテーションシステムについての講義を受ける、また、スペインから研修生としてきていたPHDに、お互いの研究内容のプレゼンを行った。</p> <p>2月11日：脳外傷センターで、PHDの研究ミーティングに参加した</p> <p>2月12日：イーストアングリア大学のDr. Stepanieに半側無視の研究について情報交換を行った。</p> <p>2月13日：ラファエロ病院にて、Barbara Wilson教授の臨床について、ロックトインシンドロームの患者2名の臨床を見せてもらった。さらに、日常生活評価法の講習会に参加した。</p> <p>2月16日—26日 カロリンスカ研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共同研究者であるLouise Nygard教授の教室と神戸芸術工科大学、神戸大学で、これまでの科研の成果についてワークショップを開催した。</li> <li>1) 相良教授による高齢者在宅の促しシステムの開発状況</li> <li>2) 博士院生の橋本氏による半側無視のMixed Reality研究の報告</li> <li>3) 野田准教授によるごみ分別システムの報告</li> <li>4) 種村によるカロリンスカ研究所が開発したKIREUM評価の施行状況報告</li> <li>5) カロリンスカカクタスチームによる研究紹介</li> <li>6) 英国からの留学生Sarah史によるETUQの報告</li> <li>7) Elin氏によるETUQアプリの紹介</li> <li>8) Camilla氏によるショートバージョンETUQの紹介</li> <li>9) Anna氏による認知症にやさしいスーパーマーケットの紹介など</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法学の学生の第1セメスタ(実習報告)一、第3セメスター (Petagogy) の学生の授業に参加した。</li> <li>・EU資金による高齢者のためのAssistive technologyプロジェクト研究会に参加した</li> <li>・2018高齢白書にも記載されているコレクティブハウスに行き、実際の居住者に話を伺った。</li> </ul> |        |

- ・ Storebyにあるナーシングホームを訪問し、産官学連携の研究について話を伺った。
- ・ MoUというストックホルム市内の地域と学際施設とを連携させる研究施設に行き、話を伺った

#### 海外派遣終了後の研究交流の進捗状況（2020年2月現在）

1. カロリンスカ研究所とは継続的に高齢者の社会支援の研究を行っている。派遣が3月までだったために1か月と期間が短く、十分にこれからの新たな研究の内容を検討するところまでは至ってない。
2. 高次脳機能障害に対する研究は、グラスゴー大学のEvans教授等が主催する学会（2019年6月開催）で院生を含め、8名で発表し、うち1名がポスター賞を受賞した。さらに1名の論文が、Neuropsychological rehabilitationにこの2月に採用されたところである。